

大雨の被害に対する事後対策について

気象災害対策 R 4 - 5
令和 4 年 8 月 4 日
農林総合研究センター

I 気象の概況

石川県では、8月4日未明から夕方にかけて雷を伴って激しい雨（白山河内で1時間に最大108ミリ）が降り、加賀地方を中心に冠・浸水被害が認められているので、事後対策を徹底して下さい。

ただし、河川や水路が増水し危険が予想される場合は、危険箇所近づかず、安全確保に努めて下さい。

II 事後対策

〈要旨〉

- 1 冠水・浸水した水田では稲体が軟弱化し、病害の発生が懸念されるので、退水後にはほ場巡回を行い、早期発見に努める。
- 2 園芸品目は、長時間の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいので、圃場内の排水を徹底するとともに、冠・浸水した圃場では、早急に防除を実施する。

〈詳細〉

1 水 稲

- (1) 冠水・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場内の排水に努める。
- (2) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入した場合は、土砂を除去し、通水を確保する。
- (3) 冠水したほ場では、稲体が軟弱化し病害の発生が懸念されるので、排水後もほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。

2 大 豆

- (1) 冠水・浸水したほ場では、ほ場内や排水溝の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の土砂流入の除去や溝の手直しを行い、必要であれば新たな排水溝の設置を行う。
- (2) 長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、速やかな排水対策を徹底する。葉が黄化している場合は、排水対策を講じた上で、窒素成分で2kg/10a程度の追肥を行う。

3 野菜・花き（トマト、白ねぎ、かぼちゃ、花き類等）

野菜・花きは長時間の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、収穫期のトマト、白ねぎ、花き等は病害による品質低下などの障害が発生しやすいので、速やかに以下の対策を実施する。

〈施設栽培〉

- (1) 通路等に停滞水がないよう、表面排水に努める。
- (2) 養分過剰吸収による栄養生長過多や裂果等の障害果が発生しないように適正な水管理、換気に努める。
- (3) 湿害による根腐れで草勢の低下が著しい場合は、摘果を行い、草勢の回復に努める。
- (4) 長雨により防除が出来ない場合は、必要に応じてくん煙剤を使用して病害のまん延を防止する。

〈露地栽培〉

- (1) ほ場の畝間等の停滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の誘起につながるのので、表面排水に努める。うね間が縦に長く停滞水となる場合は、うねの一部をつぶして横方向にも排水のための明渠を設け早期排水に努める。
- (2) 冠・浸水したほ場では、排水を迅速に行うとともに、根腐病、疫病、軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早急に防除を実施する。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、適量の範囲内で洗い流すように防除する。
- (3) 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努める。

4 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、もも、くり、いちじく 等）

- (1) 収穫期にあるハウスぶどうや収穫期を迎えるなしでは、果実裂果の発生が懸念されるので以下の対策を徹底する。
 - ①ぶどう：ハウス谷間の排水とハウス内の換気を徹底する。
 - ②な し：排水溝を整備し、ほ場内の排水を徹底する。なお、果実裂果が激しい場合は、裂果が終息するまで被害果の除去を控え、裂果の拡大を防ぐ。
- (2) 落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

5 畜 産

- (1) 畜舎が冠水した場合は、天候が回復しだい泥の排除、水洗を徹底し、乾燥させた後消毒を行う。さらに、機械器具等も洗浄、消毒を徹底する。
- (2) 飼料作物については、長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、滞水したほ場は排水溝を掘るなど、すみやかな排水対策に努める。